

		○ 希望する職業がソフトウェアに見当たらない生徒への配慮をする。
4 活動を振り返り、整理する。	○ 活動を通して学んだことを各自がまとめる。	○ ワークシートに記入させながらまとめさせる。
5 まとめた内容を発表する。	○ 調べた職業の内容やまとめたことを発表する。 ○ これまで考えてきた希望職業について各自が検討する。 ○ 職業についてさらに調べてみたいことを考える。	○ 各自の考えや感想を大事にしたい。 ○ 進路を考える上で、幅広く職業について知ることの大切さに気付かせたい。 ○ 活動を通して学んだことを生かし、実際に自分たちで調べようとする意欲を大事にしたい。
6 次時の活動の見通しを持つ。	○ 身近な人々への職業インタビューの内容をとに、情報を交換し合う。	○ 職業インタビュー活動（両親などへ）に対する意欲を高めたい。

(3) 事後指導

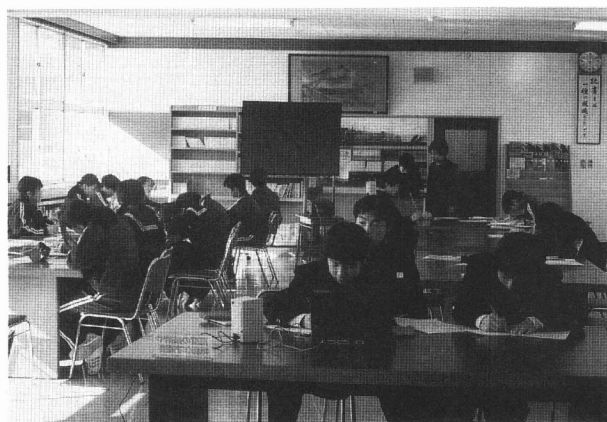
- 将来の職業を意識した進路計画を立てさせる。
- コンピュータを使って調べたことをもとに職業のインタビュー活動(両親や身近な人への)へ結びつけられるように指導していきたい。

(4) 評価

- 自分が希望する職業の大まかな内容や特色や適性等を知ることができたか。
- これまで考えていた進路計画を吟味・検討する必要があることに気づき、進んで自らの進路を切り開こうとする意欲が高まったか。

(発表、観察、ワークシートへの記録状況)

イ 授業の様子



・ 自分が将来就きたいと考えている職業がどの分類にあてはまるかを考え、一人一人が目的を持って活動していた。

・ ワークシートとの関連をとらえながら、活動全体の流れをつかみ、それぞれが時間を有効に活用しながら主体的に活動していた。

・ 職業分類ごとに調べる場を設定し、生徒が目的の場所に移動して活動する形態をとったため、同じ職業について話し合ったり、他の生徒が調べている職業についても興味を持って視聴したりする姿が見られた。

・ 生徒はコンピュータで調べる活動と調べた内容を個別にまとめる活動に、それぞれの場所を移動しながら取り組み、図書室の広い学習空間を有効に使っていた。また、生徒自身が活動の細かな内容や活動場所等を自ら選択することで、活動全体が意欲的かつ主体的に展開された。

ウ 授業後の生徒の声

・ 職業の内容やインタビューの声がとても新鮮に感じ、どんな仕事なのかが分かりやすかった。

・ 仕事の様子が分かり、いろんな考えにふれることができて良かった。

・ 今まで漠然と考えていた進路について、もっと真剣に考えなければならないと思った。

・ 考えていたより、仕事に就くということは大変であると感じた。

・ どんな高校に進学したらよいか見通しがもてた。

・ 職業について知っているのとそうでないのと